千鳥ヶ淵
第 574 号
令和７年７月１日

公益財団法人　千鳥ヶ淵
戦没者墓苑奉仕会
〒102-0075　千代田区三番町２
電　話　03（3261）6700
ＦＡＸ　03（3261）6712
http://www.boen.or.jp
郵便振替口座　00140-2-42556
編集人　中村　勤
発行人　杉本　順則

終戦80年、令和7年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式

新たに３６８柱を納骨

納骨の儀でご遺骨を奉持する福岡厚生労働大臣

令和７年度厚生労働省主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式が５月26日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えして、ここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて厳かに執り行われた。

墓苑六角堂墓前には天皇皇后両陛下下賜の大花籠が飾られ、遺族１６９名、並びに石破総理大臣をはじめ、衆議院議長、参議院議長、関係各省大臣、国会議員、駐日関係各国大使、各政党代表、関係団体代表、遺骨帰還事業協力者等の来賓２２７名の計３９６名が参列した。

式典は定刻午後零時三十分、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が入場され開始された。皇宮警察音楽隊の演奏に合わせて参列者全員の国歌「君が代」斉唱に始まり、福岡厚生労働大臣の式辞、引き続き、納骨の儀が執り行なわれ、厚生労働大臣が社会援護局長から手渡されたご遺骨を奉持して六角堂内の納骨室に収めた。

今回納骨されたご遺骨は硫黄島、パラオ諸島、マリアナ諸島、東部ニューギニア、ビスマーク・ソロモン諸島、ロシア、モンゴル等において収容した戦没者のご遺骨のうち、ご遺族に引き渡すことができない３６８柱が墓苑に納骨された。今回の納骨により墓苑には累計３７１、００８柱のご遺骨が奉安された。

式典は納骨の儀の後、参列者全員が起立するなか秋篠宮皇嗣同妃両殿下が墓前に進まれ拝礼された。両殿下の拝礼に合わせて参列者一同が拝礼し、戦没者のご冥福をお祈りした。

拝礼の後、両殿下は参列者一同がお見送りするなか退席された。その後、総理大臣を始めとして、日本遺族会会長、都道府県遺族代表、駐日関係各国大使、衆議院議長、参議院議長、衆議院厚生労働委員長、参議院厚生労働委員長、外務大臣、環境大臣、防衛副大臣（同大臣代理）、各政党代表、全国知事会事務総長（同会長代理）、日本戦没者遺骨収集推進協会副会長代表理事（同会長代理）、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会副会長（同会長代理）がそれぞれ献花を行い、最後に厚生労働大臣が献花した。そのあと参列者全員の参拝が行われ令和７年度拝礼式は終了した。

この間、皇宮警察音楽隊の演奏する「慰霊の曲」、「慰安する」、「悲しみ越えて」の３曲が式典をより一層厳かなものとした。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式
厚生労働大臣式辞

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと、戦没者御遺族及び来賓各位の御参列を得て、千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式を挙行するに当たり、一言御挨拶申し上げます。

苛烈を極めた先の大戦において、数多くの方々が祖国を思い、愛する家族を案じながら、戦場に斃れ、あるいは戦後、遠い異郷の地で命を落とされました。今日の我が国の平和と繁栄が、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであることに思いを致し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

政府においては、昭和二十七年以来、遺骨収集事業に取り組むとともに、ＤＮＡ鑑定による身元の特定を進め、できる限り多くの御遺骨を御遺族の元にお返ししてまいりました。

本年は、現在までに御遺族の元にお返しできていない、硫黄島、パラオ諸島、マリアナ諸島、東部ニューギニア、ビスマーク・ソロモン諸島、ロシア、モンゴル等で収容した三百六十八柱の御遺骨を新たにお納めします。これにより、千鳥ヶ淵戦没者墓苑の御遺骨は、三十七万千八柱を数えることになります。他方で、未だに多くの戦没者がふるさとに戻られることなく、各地に眠っておられることも決して忘れません。

遺骨収集事業については、現地情勢を加味しつつ取組を進めており、今年度も既に、マリアナ諸島や、パラオ諸島、モンゴル、東部ニューギニア、ビスマーク・ソロモン諸島での現地調査や遺骨収集を実施しております。引き続き、諸外国の関係者の方々や、外務省、防衛省等の関係省庁、日本戦没者遺骨収集推進協会をはじめとした多くの皆様の、一層の御協力をいただきながら、一柱でも多くの御遺骨が、一日も早くふるさとに戻られるよう、全力を尽くしてまいります。

本年は、戦後八十年を迎える年であります。戦中・戦後の労苦を体験された方が少なくなる中で、先の大戦の多くの教訓を、風化させることなく継承していかなければなりません。戦争の惨禍を二度と繰り返さぬよう、世代を超えて記憶を語り継ぎ、世界の恒久平和と繁栄に、能う限り貢献していくことをお誓い申し上げます。

終わりに、戦没者の御霊の安らかならんことを、そして、御遺族の皆様の御平安を切に祈念し、また御参列の皆様に感謝申し上げ、式辞といたします。

令和七年五月二十六日

厚生労働大臣　福岡　資麿

墓前へ進まれる秋篠宮皇嗣同妃両殿下

献花に向かう額賀衆議院議長及び関口参議院議長

献花する遺族代表

献花に向かう石破総理大臣

墓苑の花「紫蘭（しらん）」

花言葉
「あなたを忘れない」

あなたに夢を。街に元気を。
宝くじ　クーちゃん

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

令和７年度　日本国練習航海
部隊実習幹部による参拝・献花

５月29日、令和７年度日本国練習艦隊司令官・渡邉　浩海将補以下実習幹部１９６名（うち女性30名）が儀仗隊・ラッパ隊を伴い千鳥ヶ淵戦没者墓苑を参拝・献花した。

同部隊は夏制服の礼装で威儀をただし墓前に整列、渡邉司令官が墓前に花輪を捧げ、これに合わせてラッパ吹奏のもと参列者全員が拝礼、黙とうを行い、先の大戦で亡くなった英霊に哀悼の誠を捧げるとともに、これからの遠洋練習航海での任務完遂と無事の帰還を祈った。

実習幹部は、練習艦「かしま」（艦長　１等海佐　池田　忠司）及び練習艦「しまかぜ」（艦長　２等海佐　小城　賢一）の２隻に分かれ乗艦し、６月13日に横須賀を出港し、１５３日間の練習航海を経て本年11月12日に横須賀に帰国予定である。

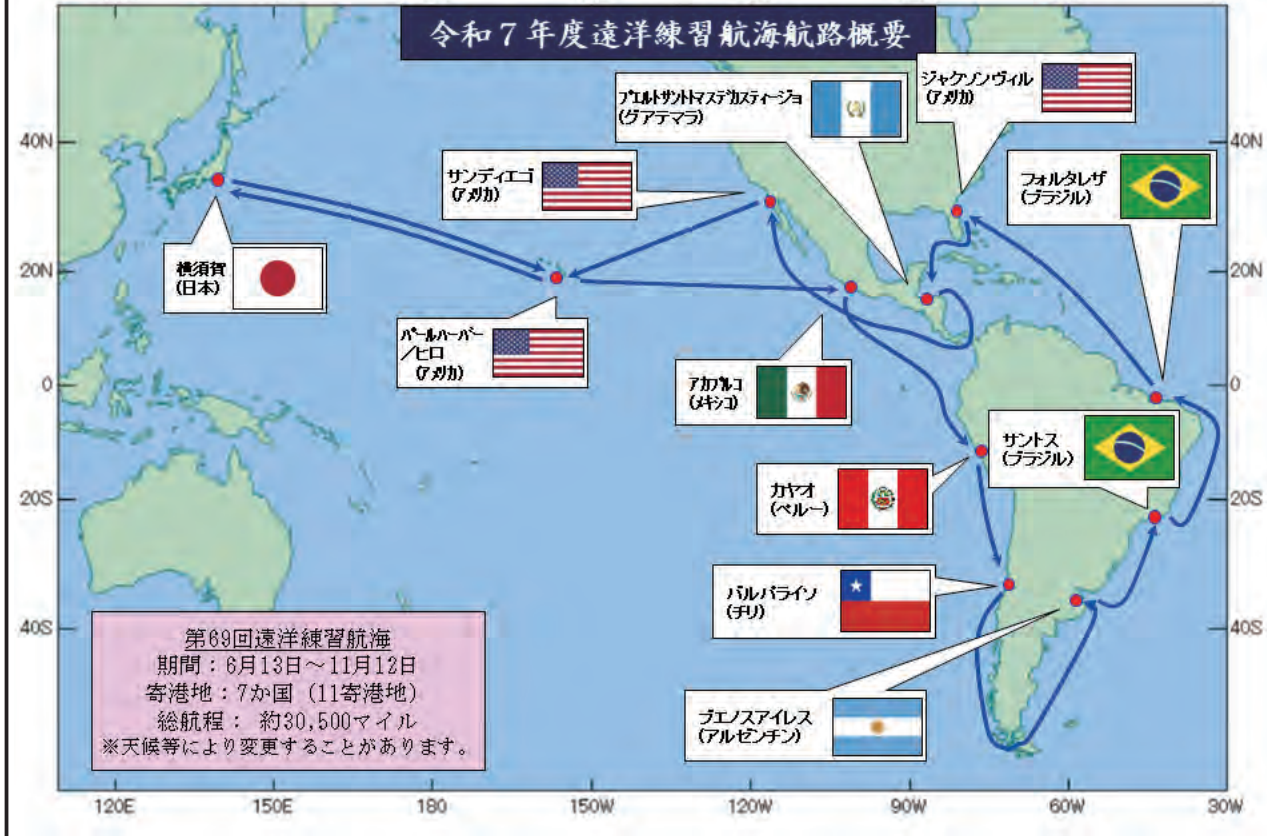
本航海は南米コースで寄港予定国（寄港地）は、アメリカ合衆国（パールハーバー）、メキシコ合衆国（アカプルコ）、ペルー（カヤオ）、チリ（バルパライソ）、アルゼンチン（ブエノスアイレス）、ブラジル（サントス、フォルタレザ）、アメリカ合衆国（ジャクソンヴィル）、グアテマラ（プエルトサントトマスデカスティージョ）、アメリカ合衆国（サンディエゴ、ヒロ）。その総航程は約３０、５００マイルとなる。

練習艦隊司令官・渡邉 浩海将補

海上自衛隊の遠洋練習航海は、幹部候補生学校を卒業した実習幹部に対して、長期にわたる洋上生活と各種訓練を通じて、部隊勤務に必要な基礎的知識・技能を修得、指揮統率の基本を体得させ、国内外に対する視野を拡大させることを目的としている。遠洋練習航海は、昭和32年以降、毎年実施してされており今回で69回目となる。同航海は、主として北米、南米、環太平洋、世界一周及びインド・中東コースの概ね５つのコースがある。

墓前に花輪を捧げ敬礼する渡邉司令官

参列者全員による拝礼



練習艦「かしま」

練習艦「しまかぜ」

陸・空自衛隊による史上最大規模の清掃ボランティア作戦

千鳥ヶ淵戦没者墓苑では毎月、多くの個人及び団体のボランティアによる墓苑の清掃奉仕をいただいている。

５月17日（土）あいにくの大雨の中、首都圏所在の自衛隊各基地・駐屯地の准曹友会から自衛官及びその家族の計１８７名が参加した（十条（90名）、朝霞（44名）、市ヶ谷（27名）及び三宿（26名））。この１８７名の清掃ボランティアはこれまでで最大規模であり、まさに史上最大規模の清掃ボランティア作戦であった。

墓苑清掃ボランティアの世話役を務める澤飯　敦さん（金融庁総合政策局参事官）は、「戦後80年を迎えるが、私たちは戦没者の皆さんへ崇敬の念をいつまでも持ち続けることが必要だと思う。今日は現役の自衛隊の皆さんがお子様連れで清掃ボランティアされる様子を見て戦没者の方々もさぞや満足されていると思います。次回の清掃ボランティア作戦（９月20日）にはさらに多くの自衛官とご家族の皆さんの参加をお願いしたい」と語った。

大雨の中、玉石を磨くボランティア

史上最大規模の清掃ボランティア作戦に参加した187名

暑中お見舞い申し上げます
令和７年盛夏

日本遺族会
中央乃木會
東郷会
陸修偕行社
英霊にこたえる会
大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
特攻隊戦没者慰霊顕彰会
水交会
三笠保存会
隊友会
靖國神社
日本国防協会
千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

各団体の慰霊参拝

比島ミンダナオ島戦没者遺児の会　4月12日

千葉県多古町遺族会　4月11日

龍雲寺　4月17日

千鳥ヶ淵戦没者墓苑トイレ清掃奉仕会　4月12日

厚生労働省新任職員研修　4月25日

陸上自衛隊衛生学校幹部初級課程学生　4月24日

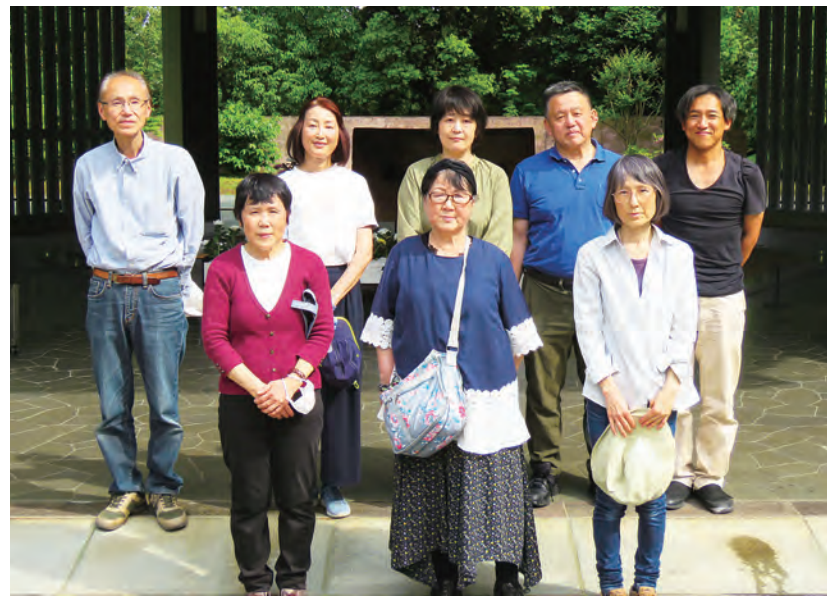
東京都千代田区海洋少年団　5月10日

お茶の水女子大学学生　4月26日

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

各団体の慰霊参拝

喇叭保存会　5月11日



阿含宗清掃奉仕　5月11日

水交会月例参拝　5月15日

栃木県小山市遺族会　5月13日

立正佼成会清掃奉仕　5月18日

福井県遺族会　5月18日

愛媛県八幡浜市遺族会　5月28日

神奈川県大磯町遺族会　5月28日

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

終戦80年　日本遺族会
第３回平和の語り部定期講話会
―千鳥ヶ淵戦没者墓苑から考える戦争と平和について―
後援：千代田区・千代田区教育委員会

一般財団法人日本遺族会は、戦争の風化を防ぎ、平和の尊さを次世代に伝承するため、「遺族会の平和の語り部」を全国各地で実施している。

５月11日（日）13時から15時の間、当墓苑において「千鳥ヶ淵戦没者墓苑から考える戦争と平和について」をテーマに第３回平和の語り部定期講話会が参加者45名で開催され、墓苑各施設の見学と清掃奉仕の体験の２部構成で実施された。

墓苑の前屋において、全員で黙とうを行い、日本遺族会・水落会長の挨拶に引き続き、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会・榊枝理事長が墓苑設立の経緯等を説明した。じ後、参加者は、榊枝理事長の案内で戦没者数一覧図石板、御製の碑、六角堂及び戦後強制抑留・引揚死没者慰霊碑をそれぞれ見学した。

戦後強制抑留・引揚死没者慰霊碑の見学

見学後、全参加者は４組に分かれ六角堂の76本の柱の清掃奉仕を体験し、予定された講話会を終えた。最後に全員が墓前に献花し、記念撮影をして全行事を終了した。

日本遺族会は終戦80年の節目に、全国各地で戦争を体験した遺族の貴重な記憶を次世代と共に後世代へ伝えて、平和の尊さを次世代と共に考える語り部定期講話会を実施する。

問い合わせ先：一般財団法人　日本遺族会　語り部事業本部広報室（細貝、中澤、大庭）
TEL：03－3261－5521
E-mail：koho@nippon-izokukai.jp

参加者の記念撮影

六角堂の76本の柱の清掃奉仕

終戦８０年募金

１０，３４０，０００円
累計（７年５月31日現在）
１，５６０，０００円
（４月１日から５月31日の間）

☆募金された皆様（敬称略、順不同）

平島忠四郎、境田吉男、大崎　朗、久保田素史、菊池正通、志賀末吉、堀野慶子、杉　幸一、馬野猛彦、亀山和子、志賀末吉、野村美通、稲葉　宏、木村　清、上月良祐、安藤幸子、恩田房子、別府二郎、倉林昭美、高橋征一、山下良子、渕上正資、小菅　孝、井上　章、石井善太郎、石井善輝、飯田恭久、波多野　勇、小倉健男、寺内多恵子、佐藤義一、大熊克昌、木村百合子、山田幸枝、松本由男、石垣千代子、保田嘉雄、矢野俊弘、星野佳一、皆川　潔、薮内應幸、内藤寿美子、沢田　進、小野弘子、結城和男、宮本清二、大西茂雄、冨樫富子、矢嶋正久、黒住宗晴、小田永人、中村時男、若林秀男、牛山喜久、葛野赫子、佐田康昭、黒田一徳、大西良二、綾田正道、常川英樹、本庄朋子、佐々木典夫、杉本達哉、㈱及川装飾店、津村直竹、前坂泰正、宇都宮弘臣、松下和夫、森上彰子、井野久美、稲野裕介、原田真英、湯原里枝、加賀田　実、森谷世都子、久津美寛治、根本敏弘、柳澤　潔、澤井園子、青木繁政、髙橋有仁、大中勝博、酒光幸子、周郷サカエ、古賀輝樹、塚原　正、本田佳光、藤岡義道、宮﨑千枝、萱沼豊子、曽我京子、野口恵美子、吉田雅哉、宮原和弘、百田　宏、鵜野豊明、山本広子、宮澤イサ子、青木訓治、安房政吉、奥住栄子、伏見公孝、樋爪正夫、木村恵介、風間徳昭、笹本拓斗、川上柳逸、橋本義之、野澤とみえ、春山九州男、人見勝久、中村　豪、木村圭作、山田峰榮、金子四郎、深澤靖子、冨岡万揮、岩﨑和子、堀江イネ、髙柳　實、三浦邦夫、片山厚子、柴田純一、小林充裕

（皆様のご芳志に篤く御礼を申し上げます）

振込票記載内容の一部誤りのお詫び

今年度広報紙５月号に年会費振込票を同封させて頂きましたが、一部の会員の方には過去の入金状況に誤りがあり、大変申し訳ありませんでした。

既にお詫びと訂正のご連絡をさせて頂きましたが、今後、誤りなきよう鋭意努力致しますので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

終戦80年募金（継続）のお知らせ

終戦80年募金（千鳥ヶ淵戦没者墓苑のリニューアル（施設・設備等）等のための募金（継続）

・一口：個人５千円、団体３万円
・期間：令和６年７月１日から令和７年12月末日まで
・振込口座：郵便為替口座番号　00140－2－42556
・「終戦80年募金」と明記して下さい。

公益財団法人　千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
理事長　保松　秀次郎

◎奉仕会年度会費納入者（団体・個人）（敬称略、順不同）

（一財）全国強制抑留者協会（特別会員）八津御嶽神社（特別会員）、山口格夫、豊田　陽、茂又武子、稲荷智則、本田恒雄、髙市晴通、原嶋宏文、平田弘幸、村田克彦、富田喜代志、和田勝幸、深山明敏、小林一朗、石田亜紀子、田中富士雄、橋間元徳、大澤一久栄、小林弘子、永友　隆、大沢　正、津田　章、柴田誠悦、合原佳雄、室伏孝一、新田光子、塩田益也、和田信之、高梨節夫、渡邉守久、堤　将純、山本順生、荒井紀子、服部千里、荒川　勉、中田勝仁、村田瑞穂、宮本清二、渡辺一陽、蛭田千秋、水落信和、矢嶋正久、福田文治、長澤啓子、幸村龍一、大森昭彦、滝沢幹雄、浦川陽子、大野広亮、増田健三、杉浦涼子、長澤和一、多田昌司、大久保隆文、鈴木健一、登坂岩雄、新井實沙子、清水則廣、藤田憲二、橋本尚理、吉田博光、松下良興、二俣邦枝、小島ゆみこ、勝見登志子、加藤史明、岩崎弥生、南　隆太郎、御薗生和彦、麓川昭憲、太田隆子、江頭瑞穂、野澤直己、坂田輝男、坂田鎮巌、竹村五夫、岩崎美智子、山田フヨ、中村妙子、落合健次、柿澤　恒、細矢雅久、横山則義、内藤忠明、本郷隆男、吉田一郎、勝浦芙二代、柚木文夫、島本昌彦、長谷部邦夫、材津裕治郎、滝川宏子、新井秀樹、水島正彦、吉岡燁子、横山靖之、佐藤直辰、土肥俊峯、小沼芳子、片木敬三、中曽根昌一、原田敏裕、黒岩しま、橋本謙二、田浦政彦、冨田武司、小林健二、村田　陽、岩宮具子、小林広法、本田敏美、齋藤　準、山根　昭、松尾敏一、長谷部文雄、嬉　昌大、國澤輝生、土師野良明、今井敏夫、藤原信子、田村　響、一宮　亮、吉里年和、小林孝太郎、加藤園栄、宮平　優、小柴明子、小黒俊之、名古路　彰、河村　涼

◎新入会員（敬称略、順不同）※（正）は正会員、（終）は終身会員、（特）は特別会員

中村哲也（終）、ロジカ株式会社（特）、小原寛子（終）、髙橋英明（正）、図司英恵（終）、木村信子（正）、嵐　友樹（正）、松井克彦（正）、本永博幸（終）、野村太郎（終）山岸正昭（終）、澤井園子（正）、白谷航士（終）、卜部桜子（終）、保松秀次郎（終）、北原哲治（正）、二ノ宮徳夫（終）

◎奉納者（団体・個人）（敬称略、順不同）

奉仕茶会、普明会教団、法華宗、比島ミンダナオ島方面戦没者遺児の会、クラスノヤルスク遺族会、小山市間々田地区遺族会、水交会、大磯町遺族会、八幡浜市遺族会、山崎文夫、小林正宏、樋口朋幸、田浦政彦、廣川貞雄、酒井治雄、三宅洋之、上村淳子、岩浅博之、柴田米實、坂田鎮巌、秀平良子、小池恵一、酒井・吉田家一同、長澤啓子、榊枝宗男

◎参拝団体（前項以外、敬称略、順不同）

掛川市遺族会、多古町遺族会、岡崎市遺族連合会、群馬県桐生市遺族会、福井県遺族会、日本遺族会語り部の会、日蓮宗、龍雲寺、カトリック小金井教会有志、喇叭保存会、喇叭伝承会、千代田区海洋少年団、厚労省新任職員研修、海自令和七年度練習艦隊、陸自衛生学校

◎清掃奉仕（敬称略、順不同）

千鳥ヶ淵戦没者墓苑トイレ清掃奉仕会、阿含宗清掃奉仕、千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会、立正佼成会清掃奉仕

◎献花台奉仕者（敬称略、順不同）

柴山古流・縁山流（奥島冷恵、菊地冷瞳、樋口冷美）、遠州流一森会（名鏡一富、名鏡一玲、森田ももか、堀内一澄、柏崎一志）都古流一孝会（内田和宏、内田空良、山口桂子、山口蒔穏、湯浅共子）、草月流（島村俊草、花泉由美子、鈴木一恵、雨宮早苗）、草月流（高橋一美山）、松南古流（水沼松志、桑原松和）、一翠古流（内藤理扇、蓑輪理佳、土田理雪）、池坊壺宮式（下村柳泉、中島柳陶、鈴木淑泉）、池坊宝生流（大澤勝風、長谷川一翠）

令和７年５月31日までの受付分を掲載、６月１日以降の受付分は９月号に掲載します。

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

法華宗（本門流）宗務院 戦没者慰霊法要

4月11日、法華宗の僧侶及び檀信徒の約50名が参列し、法華宗（本門流）宗務院主催の戦没者慰霊法要が当墓苑で執り行われた。

墓前の祭壇には諸天善神のお名前が記された曼荼羅の本尊が祀られ、一同が南無妙法蓮華経を唱題する中、導師の金井総長が入場・着座し法要が開始された。

法要は、勧請、方便品、自我偈などと経文が続き、最後に金井総長が「ロシアによるウクライナ侵略や中東での紛争が続き、未だ全世界に平和が訪れていない。我が国はここに眠る英霊の礎のお陰で80年も紛争に巻き込まれることなく、平和と繁栄を享受している。また、英霊のみならず、祖先を大切にする心を皆が持てば、戦争はなくなるはずである。英霊と祖先を敬おう」と挨拶した。

世界平和の重要性を説きつつ、ここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑に眠る英霊に対する追悼慰霊の誠を捧げる厳粛な法要であった。

本法要は、平成5年、当時の川口善教宗務総長が全国の宗門の僧侶、檀信徒に呼び掛けて第1回の戦没者法要が行われて以来、コロナ禍の令和2年を除き毎年続けられている。

（奉仕会理事長就任のご挨拶）千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会会員および関係各位の皆様へ

このたび、令和7年5月22日付で理事長を拝命いたしました保松秀次郎でございます。平素より本会への深いご理解とご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年は、終戦80年の節目を迎えます。しかし、先の大戦で約310万の命が失われた事実、そして先の大戦で海外において亡くなられた軍人、軍属そして一般邦人の内、引き取り手のない約37万柱のご遺骨が、この墓苑に静かに眠っておられる現実を、知る人は年々少なくなってきています。

これらの国難に殉じられた方々は名を残すこともなく、ふるさとに帰ることもなく、ただ日本の地に還り、この六角堂に眠っておられます。私たちが今日、平和にそして豊かに暮らせているのは、まさにこの方々の尊い犠牲の上に築かれているということを、決して忘れてはなりません。

毎年5月、当墓苑には紫蘭（シラン）の花が咲きます。紫の花が、まるで祈るように六角堂に頭を垂れるその姿は「あなたを忘れない」という花言葉そのもの。名前がなくとも、忘れない。その想いが、私たち日本人の〝祈りのかたち〟ではないでしょうか。

「人は死ぬときに一度、忘れられたときにもう一度死ぬ」この言葉の重さを、私たちは心に刻まなければなりません。

そのためにも、まずはこの墓苑の存在を、一人でも多くの方に知って頂くこと。それが、慰霊と継承の第一歩です。

そして、とりわけ若い世代に向けて、社会科や道徳の見学先として、また真の平和学習のため、修学旅行の訪問先として、この墓苑が活用されることを強く願っています。命の尊さと平和の意味を、自ら足を運び、胸に刻む――その体験こそ、未来を築く力になると信じています。

この想いを次の時代へ繋ぐため、あらゆる手段を尽くしてまいります。どうか皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせて頂きます。

公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑
奉仕会理事長　保松 秀次郎

新任の奉仕会常務理事2名の自己紹介

○槻木　新一（つきぎ　しんじ）

本年5月22日付で常務理事となりました槻木です。出身は熊本県。防衛大学校卒業後、海上自衛隊で35年奉職。その後㈱日立製作所、㈱日立アドバンストシステムズでの勤務を経て現在に至っています。奉仕会では、会計・総務の業務を担当します。

○住吉　一俊（すみよし　かずとし）

本年5月22日付で常務理事となりました住吉です。出身は熊本県。防衛大学校卒業後、陸上自衛隊で34年奉職。その後㈱MHIロジテックでの勤務を経て現在に至っています。奉仕会では、庶務の業務を担当します。

墓苑便り（奉仕会だより）

7月の献花の予定

松風花道会　中川　玲水
松風花道会　松本　君水
古流わかば会　武藤　理春
藤　栄　流　落合　一文

千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭参列のお知らせ

※10月17日（金）秋季慰霊祭に参列を希望される会員の皆様へ

会員の皆様には、本年も参列規模拡大に伴う円滑な受付業務のため、参列を希望される方は左記の要領により申し込み頂きたく存じます。なお、昨年参列頂いた会員の方には9月上旬頃にご案内状を郵送させて頂きます。

記

往復ハガキに
・氏名（ふりがな）、・連絡先（郵便番号、住所及び電話番号）　同伴者がある場合は（3名以内）
・同伴者氏名（ふりがな）と各人毎の連絡先（郵便番号、住所及び電話番号）を明記の上、受付開始9月10日から9月末日（必着）までの間に奉仕会宛に申し込み下さい。

返信ハガキには受付番号を記載して返送いたします。当日、ご携行ください。

なお、応募総数が１００名を超える場合は抽選によります。

この刊行物は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。